

八木田恭輔教授追悼号の刊行にあたって

学長 重 森 曉

八木田恭輔先生は、2006年7月ご逝去されました。定年退職後、特任教員としてますます研究と教育に邁進されようとしていた矢先にご逝去されたことは、まことに残念ではありません。

八木田先生は、1938年2月に熊本県山鹿市にお生まれになりました。1960年に日本体育大学をご卒業され、同年に大阪工業大学に助手として着任されました。本学には、1967年に教養部専任講師として着任され、その後、教養部の助教授、教授、そして2002年からは人間科学部教授として、教育・研究のみならず多方面にわたって活躍されました。

八木田先生は、体育心理学的研究をはじめ、筋電図や心エコー図などを用いた運動生理学的研究やスポーツ社会学的研究など、幅広い視野から人間の体や健康、そしてスポーツに関する多くの業績を残されました。特に、肥満者の運動と食事など健康に関する研究、歩行・ジョギングを中心とした運動プログラムについて深い関心を寄せられていました。

八木田先生は、本学に着任以来、体育や健康・スポーツに関連する科目を担当され、熱心に学生の指導にあたられました。それに加えて、長年にわたり陸上競技部の監督・部長をつとめられました。陸上競技部が全国レベルの実績を残すまでになったのは先生の指導の賜物と言っても過言ではないでしょう。ご自身も投擲選手としての活動を経て日本陸上競技連盟の役員として活躍され、国民体育大会陸上競技の審判長や国際大学女子招待駅伝や全日本対抗女子駅伝の選手村村長などを歴任され、外国選手の宿泊地におけるコンディショニングの管理などにあたられました。1998年には60歳にしてオリンピックを直前に控えたオーストラリアのメルボルン大学に長期留学を果たされるなど、国際的視野から意欲的に活動を続けられ、こうした経験を通して培われた視野の広さや経験の豊かさを以てスポーツの社会的・文化的意義を追及しておられました。また、日本学生陸上競技連合の評議員や関西学生陸上競技連盟の副会長など重要な役を担われ、関西のみならずわが国の陸上競技の振興にも多大な貢献をされました。

八木田先生は、本学の管理・運営にあたっては教養部長、学生部長をはじめ重要な役職を歴任されました。2002年からは理事としてご逝去の4ヶ月前まで大学の運営に携わってこられました。またこの間、本学は、地域社会・企業社会・国際社会に開かれた大学をめざして、さまざまな取り組みを行ってきました。その一つに、朝日放送と提携した万博記念公園での市民マラソン大会がありますが、その実現と実施にあたって、八木田先生は、とくに多大なご尽力をされました。

八木田先生は、大柄な体躯で豪快さをお持ちの反面、非常に気配りの細やかな方でした。

八木田先生のそのような人柄は、学生はもちろん多くの教職員から信頼されていました。きっとかなりご無理をされていたと拝察しますが、亡くなる直前まで講義に来られていた姿を拝見していただけに、あまりにも突然の訃報に愕然たる思いでした。

八木田先生の追悼号に寄稿された諸先生には、厚く御礼申し上げます。八木田先生のご冥福を心からお祈りいたします。